

量 と 質 の 両 立

作物生産技術のねらいは、単位面積当りの収量を安定的に高め、高い商品性を發揮して収益や労働報酬を多くすることにある。生産量の少ない時代には、ある程度の品質を保っておれば、相当の価格で売れるので、量の増大をはかれば収益の増加がはかられる。生産量が多くなると、品等のちがいや品質の差による価格差が大きくなるので、良品生産に主力を注ぐことによつて収益が高まる。

わが国における果樹栽培技術の發展の歴史をみても、戦後、果実生産量の少ない時代には、いかにして反収を多くするかに技術の焦点が当てられた。今日では、生果の需要を拡大しなければ価格の維持ができないほど量産されるようになったので、各地で、うまい果物の生産のための技術に焦点が合わされて努力がつづけられている。

量の確保がはかれねば、いかに単価が高くとも収益の増大が期せられないことも事実である。ここに、技術のむづかしさがある。ともすれば、量産への技術は、質的低下を招くことにつながるから。

そこで、これからの果樹経営に当たっては、量の確保をはかりつつ品質の向上がみられるような技術を、果樹の生育相とのつながりにおいて求めなければならない。生育相の調整こそ、果樹栽培技術の要諦といつてよい。

〔千葉大学名誉教授 永沢 勝雄〕
〔東京農業大学教授〕

目 次 (第8巻第3号)

ミカン園における

スプリングラーによる除草剤散布……	2
1 土壌管理と草生……	2
2 ミカンと草のサイクル……	3
3 SPによる除草剤散布試験……	4
(1) SP散布に適する除草剤……	4
(2) 防風樹に対する薬害防止試験……	5
(3) SP散布と防風樹種の検討……	6
4 施設の利用法研究と除草剤……	7
(1) 取出口による除草剤散布……	8
(2) 粒剤使用とスプリングラー……	9
5 む す び……	10

和歌山県果樹園芸試験場

場長 宇 田 拓

九州地域における落花生マルチ栽培……	10
ま え が き……	10
1 増収効果およびその地帯性……	11
2 増収の原因……	12
3 マルチ栽培法……	18
む す び……	21

農林省九州農業試験場

作物二部 井 口 武 夫

昭和48年度秋冬作野菜・花き関係

除草剤、生育調節剤試験成績概要……	22
I 除草剤および除草資材……	32
II 生育調節剤……	47

農林省野菜試験場

育種部長 西 貞 夫